

米国、カナダ、オーストラリア 3カ国の豆類の生産見通し概況

米国：2014年10月10日公表 USDA Crop Production

9月の気温は米国の大部分の地域で平年並みを上回り、西部の各地で9月の平均気温を2.2℃以上上回る状況が散見された。しかし、コーンベルト地帯では全般的に9月の平年並みの気温を下回り、収穫開始前の時期に作物の成熟が遅れた。米国東部では、アイオワ州からインディアナ州にかけての地域及びカリフォルニア州北部からフロリダ州にかけての太平洋沿岸地域を除いて、全般的に9月の降水量が平年並みを下回った。米国西部の降水量の水準はまちまちであり、カリフォルニア州中部から南部のように降水量ゼロの地域がある一方で、ニューメキシコ州南部では254mmを超えている。

8月農業概要

8月の平均気温は米国各地で変化が大きかったが、コーンベルト地帯及び中部大平原（グレートプレーン）地域の大部分では平年並みの気温とのずれは1.1℃以内であった。太平洋沿岸北部、カリフォルニア州及びテキサス州南部と広範囲にわたっ

て、平年並みを1.1℃以上上回る気温となった。気温が平年並みを1.1℃以上下回ったのは、米国西部の大盆地（グレートベースン）地域、中部大平原地域北部及び大西洋沿岸地域であった。米国全体の総降水量もまた8月の平年並みの水準であり、アイオワ州西部で平年並みを254mm以上上回ったのが、例外として目立ったにとどまる。

7月農業概要

7月の気温は、ロッキー山脈東側のほぼすべての地域で平年並みを下回った。中部のミシシッピ川沿岸の渓谷地域及びオハイオ州の渓谷地域の大部分では、7月の平均気温が平年並みを2.2℃以上下回った。これと対照的に、太平洋沿岸北西部及びカリフォルニア州では、気温が高く、乾燥した状況となり、一部の地域では7月の平均気温が平年並みを3.3℃以上上回った。降水量の水準は米国全体で平年並みに近い値となり、例外はオクラホマ州東部及びアーカンソー州西部のみにとどまった。全般的にみて、コムギ及びダイズの主要な生産州で気温が平年並みを下回ったことで平年より乾燥傾向にある生育条件が緩和され、土壌湿度の大幅な低下及び生育条件の悪化が

回避された。

乾燥インゲンマメ

2014年度の米国の乾燥インゲンマメ生産量は前年度から19%増加して1,174万haとなる見込みである。作付面積は2013年度に比べて25%、2014年度に比べて24%増加して68万haとなる見込みである。米国全体の平均単収（単位面積当たり収穫量）は2,001kg/haの見込みであり、2013年度に比べて36.3kgの低下となる。実際に単収がこのような値になれば、2012年度及び2013年度に次いで史上3番目に高い値となる。ノースダコタ州では、作付けは6月22日までに事実上完了しており、前年度に比

べて大幅に早い、最近5年間の平均と同じような時期ということになる。10月5日までの時点で、乾燥インゲンマメの62%の収穫が完了しており、最近5年間の平均の71%に比べて遅れている。作柄は、大部分が平年並みから良とされている。ミシガン州では、9月の気象条件が乾燥インゲンマメの収穫にとって好条件となり、10月5日までに61%が終了しており、最近5年間の平均の65%をわずかに下回る程度である。ネブラスカ州の収穫は10月5日までに77%が終了しており、作柄は大部分が良から極めて良であった。10月5日の時点で収穫は、ワシントン州では96%、アイダホ州では84%が終了しており、ほぼ完了している。

表1 乾燥インゲンマメの2014年生産見通し等

	作付面積 (ha)		収穫面積 (ha)		単収 (t/ha)		生産量 (t)	
	2013	2014	2013	2014	2013	2014	2013	2014
オーストリアン ウィンターピー	7,280	11,530	5,710		1.81		10,340	
乾燥インゲンマメ	548,230	683,680	530,670	657,740	2.09	2.00	1,110,670	1,317,050
乾燥エンドウ	348,030	372,720	322,540		2.20		708,510	
レンズマメ	146,500	129,500	140,430		1.62		227,660	
リンクルド シードピー	(未詳)		(未詳)		(未詳)		12,470	

2014年10月10日公表、米国農務省(USDA) 農業統計委員会 国内農業統計局(NASS)
 [データは、入手可能な最新の報告書または前回の報告書の推定データによる。現行年度の推定は、2014収穫年度
 全期間に関するものである。空欄は、推定期間がまだ始まっていないことを示す。]

表2 米国における乾燥インゲンマメ及びヒヨコマメの生産状況

	作付面積(1,000ha)				収穫面積(1,000ha)				単収(kg/10a)				生産量(1,000t)			
	2011	2012	2013	2014	2011	2012	2013	2014	2011	2012	2013	2014	2011	2012	2013	2014
ノース ダコタ州	166	283	178	263	154	277	174	251	135	187	181	155	224	529	322	408
ミシガン州	69	81	71	85	68	80	70	84	222	198	209	232	152	160	148	197
アイダホ 州	38	59	51	53	38	58	50	52	222	234	211	222	85	137	107	117
ネブラスカ 州	45	59	53	67	42	54	47	62	214	247	237	263	95	145	125	176
ミネソタ州	57	65	51	61	55	63	49	58	183	217	210	150	103	141	106	91
ワシントン 州	31	47	47	49	31	47	46	49	213	216	202	179	66	101	94	87
カリフォル ニア州	23	24	20	19	23	23	20	19	211	250	258	266	49	59	52	52
ワイオミン グ州	14	18	16	17	13	17	15	16	232	251	279	278	33	46	44	47
モンタナ州	6	13	10	16	6	13	10	16	202	163	212	240	12	21	21	39
コロラド州	15	20	16	19	15	18	15	17	173	186	155	189	27	38	24	35
その他	28	37	38	36	27	35	36	34	191	194	180	191	55	72	67	68
米国全体	493	705	548	684	473	684	531	658	183	205	203	193	902	1448	1111	1317

資料：米国農務省 国内農業統計局 (NASS) 『Crop Production Current Documents』2014年10月10日付け
 及び『Crop Production Annual Summary』2014年1月10日付け
 (注) 2014年は10月1日現在の見込みである

表3 乾燥インゲンマメの州別及び銘柄別作付面積の推移 (8月14日現在の推定値)

州名及び銘柄名	2013	2014	州名及び銘柄名	2013	2014	州名及び銘柄名	2013	2014
	(1,000エーカー)			(1,000エーカー)			(1,000エーカー)	
ラージライマ			ダークレッドキドニー			スモールレッド		
カリフォルニア州	6.7	8.1	カリフォルニア州	0.8	1.4	アイダホ州	7.6	9
ベビーライマ			アイダホ州	0.6	1.9	ミシガン州	15.5	16.5
カリフォルニア州	6.8	13.2	ミシガン州	2.3	2.4	ミネソタ州	(1/)	1.5
ネイビー			ミネソタ州	34.1	37.5	ノースダコタ州	1.9	2.5
アイダホ州	2.1	3	ニューヨーク州	1.6	1.4	ワシントン州	1	4
ミシガン州	60	72	ノースダコタ州	1.4	1.9	米国全体	26	33.5
ミネソタ州	36.2	49.1	オレゴン州	0.5	0.7	克蘭ベリー		
ネブラスカ州	(1/)	0.8	ワシントン州	(1/)	3	カリフォルニア州	0.6	0.8
ノースダコタ州	71	116	ウイスクンシン州 2/	5.4	7.6	アイダホ州	(1/)	(1/)
オレゴン州	2.3	1.1	米国全体	46.7	57.8	ミシガン州	3.5	3.9
サウスダコタ州	1.7	4.8	ピンク			ミネソタ州	(1/)	2.6
ワシントン州	(1/)	0.7	カリフォルニア州	0.6	(1/)	オレゴン州	(1/)	(1/)
ワイオミング州	0.9	1	アイダホ州	6.9	9	米国全体	4.1	7.3
米国全体	174.2	248.5	ミネソタ州	5.8	4.2	ブラック		
グレートノーザン			ノースダコタ州	8.2	10	アイダホ州	1.4	1.6
アイダホ州	2.5	7	オレゴン州	(1/)	-	ミシガン州	78.5	98
ミネソタ州	(1/)	0.4	ワシントン州	2	1	ミネソタ州	15.2	22.2
ネブラスカ州	62	56	米国全体	23.5	24.2	ネブラスカ州	3.8	3
ノースダコタ州	6	12	ピントー			ニューヨーク州	3.9	2.4
ワイオミング州	5	12.5	アリゾナ州	4.8	4.2	ノースダコタ州	37.5	84
米国全体	75.5	87.9	カリフォルニア州	(1/)	(1/)	オレゴン州	0.6	1
スモールホワイト			コロラド州	31	38	ワシントン州	2.2	4
アイダホ州	(1/)	1.6	アイダホ州	23	17	米国全体	143.1	216.2
オレゴン州	(1/)	0.5	カンザス州	3.6	5.2	ブラックアイ		
ワシントン州	(1/)	(1/)	ミシガン州	2.3	1.9	アリゾナ州	0.3	1.8
米国全体	(1/)	2.1	ミネソタ州	11.6	9.4	カリフォルニア州	10.8	6.4
ライトレッドキドニー			モンタナ州	5.8	5.1	テキサス州	31	19.8
カリフォルニア州	2.6	1.9	ネブラスカ州	53.3	58	米国全体	42.1	28
コロラド州	3	6.3	ニューメキシコ州	10	9.8			
アイダホ州	1	2.7	ノースダコタ州	302	410			
ミシガン州	7.9	7.1	オレゴン州	1.5	1.1			
ミネソタ州	15.5	14.4	サウスダコタ州	1.6	1.5			
ネブラスカ州	8.3	11	ワシントン州	10.7	17			
ニューヨーク州	2.7	2.9	ワイオミング州	23.9	25			
オレゴン州	0.7	1	米国全体	485.1	603.2			
ワシントン州	1.5	3.2						
米国全体	43.2	50.5						

表3 乾燥インゲンマメの州別及び銘柄別作付面積の推移（8月14日現在の推定値）（続き）

州名及び銘柄名	2013	2014	州名及び銘柄名	2013	2014
	(1,000エーカー)			(1,000エーカー)	
小粒ヒヨコマメ (ガルバンゾ、直径 20/64インチ未満)			その他		
アイダホ州	15	30	アリゾナ州	4.9	4
モンタナ州	(D)	(D)	カリフォルニア州	9.8	6.9
ノースダコタ州	3.2	2	コロラド州	5	5.7
オレゴン州	(D)	(D)	アイダホ州	1.9	7.2
サウスダコタ州	0.9	(D)	カンザス州	1.4	1.8
ワシントン州	14	20	ミシガン州	5	8.2
その他 3/	12.1	14.9	ミネソタ州	6.6	3.7
米国全体	45.2	66.9	モンタナ州	0.2	0.9
大粒ヒヨコマメ (ガルバンゾ直径20/64インチ以上)			ネブラスカ州	2.6	0.9
カリフォルニア州	11.3	9.3	ニューヨーク州	0.8	1.3
アイダホ州	63	50	ノースダコタ州	2.1	6.4
モンタナ州	(D)	(D)	オレゴン州	1.8	2.6
ネブラスカ州	(1/)	0.3	サウスダコタ州	3.1	2.9
ノースダコタ州	6.7	5.2	テキサス州	2	2.2
オレゴン州	(D)	(D)	ワシントン州	5.6	9.1
サウスダコタ州	4.7	(D)	ワイオミング州	9.2	3.5
ワシントン州	78	68	米国全体	62	67.3
その他 3/	6.8	24.4	乾燥インゲンマメ全品種		
米国全体	170.5	157.2	米国全体	1354.7	1671.9
ヒヨコマメ全品種 (ガルバンゾ)					
カリフォルニア州	11.3	9.3			
アイダホ州	78	80			
モンタナ州	18	34			
ネブラスカ州	(1/)	0.3			
ノースダコタ州	9.9	7.2			
オレゴン州	0.9	1.5			
サウスダコタ州	5.6	3.8			
ワシントン州	92	88			
米国全体	215.7	224.1			

2014年8月12日公表、米国農務省(USDA)農業統計委員会国内農業統計局 (NASS)

D/個別の経営主体の生産量の開示を防ぐために公表せず。

1/ 個別の経営主体の生産量の開示を防ぐために、「その他」にデータを含める。

2/ 個別の経営主体の生産量の開示を防ぐために、一定量のライトレッドキドニーを含む。

3/ 上記の理由で公表されていないデータを含む。

カナダ：2014年9月18日公表 AAFC Outlook for Principal Field Crops

本報告書は、カナダ農業食料省（AAFC）が6月27日に公表したカナダの2013/14作物年度及び2014/15作物年度の生産見通し報告書を更新するものである。本報告書は、2014年7月に公表されたカナダ統計局の作付面積の調査に基づく報告書の情報から作成したものである。『主要畑作物作付面積報告書、2014年7月』は、5月28日から6月10日までの期間に行った24,900件の生産者への調査に基づいている。AAFCは、6月及び7月の豪雨及び洪水の影響を反映するために、マニトバ州及びサスカチュワン州の収穫面積の予測値を調整している。

豆類

乾燥エンドウ

2013/14年度のカナダの輸出量は、265万tで2012/13年度と同じ水準となる見込みである。インド及びバングラデシュへの輸出量が減少したものの、中国への輸出量が増加したことで埋め合わされた。これは主としてインドの豆類国内生産量が多かったことと、米国からの輸出の競合が激しくなったことによるものである。カナダの国内使用量が増加する見込みであるにも関わらず、2014年度期末在庫量は、重荷となる水準まで増加するものと推定されている。2013/14年度の期末在庫量が多くなる見込みであることから、乾燥食用エンドウ

の平均価格は、2012/13年度に比べて低下するものと予測されている。

緑色乾燥エンドウの作物年度平均価格は黄色乾燥エンドウの価格を175ドル/t上回っている。この上乗せ価格は平年並みを上回ってはいるが、2012/13年度の黄色乾燥エンドウ価格に対する緑色乾燥エンドウ価格の上乗せ分として過去最高記録であった200ドル/tには届かなかった。6月中にサスカチュワン州の緑色乾燥エンドウの生産者価格は約5カナダドル/t下がり、黄色乾燥エンドウの生産者価格は約10カナダドル/t下がった。これは主としてカナダの乾燥食用エンドウの作柄が良から極めて良であり、2014/15年度のカナダの緑色乾燥エンドウ生産量が増加すると予測されていることによるものである。

2014/15年度のカナダの乾燥エンドウ作付面積は2013/14年度に比べて20%増加して160万haとなったが、これは他の作物に比べて収益性が高いことと、乾燥エンドウが輪作作物の一環として有利であるという認識が引き続いていることによるものである。州別に見ると、サスカチュワン州が乾燥エンドウ作付面積の3分の2を占めており、アルバータ州が3分の1近くを占め、残りをマニトバ州及びブリティッシュコロンビア州が占めている。AAFCによる予測では、生産量は376万tまで減少するものと見込まれているが、これは単収が平年並みに戻ったことで作付面積の増加が相殺される見込みであることによるものである。しかし、供給量は3%増加して過去最高記録

の420万tとなると予測されており、これは期初在庫量が多く、生産量が過去最高に近い値となる見込みであることによる。輸出量は増加して290万tとなると予測されており、インド、中国及びバングラデシュが引き続きカナダ産乾燥エンドウの市場として上位を占めている。期末在庫量も2年続きで大幅に増加する見込みである。平均価格は2013/14作物年度の水準から低下する見込みであるが、これはカナダの期末在庫量が増加する見込みであり、供給量が過去最高記録となる見込みであることによる。

米国の2014/15作物年度の乾燥エンドウ作付面積は、米国農務省の予測によれば、2013/14年度に比べて8%増加する見込みである。これは主としてモンタナ州及びノースダコタ州で作付面積の増加が見込まれていることによるものである。単収及び収穫を断念する割合が平年並みであるとすると、米国の乾燥エンドウ生産量は、AAFCの予測によれば、8%増加して過去最高記録に近い78万tとなる見込みである。米国はカナダとの共通の市場である中国及びインドへの少量の乾燥エンドウの輸出に成功しており、2014/15年度も引き続き、米国がこの市場に占める比率を広げる見込みである。

レンズマメ

2013/14作物年度の輸出量は2012/13年度をわずかに下回って160万tとなる見込みである。この総輸出量のうち、90万tが赤色レンズマメであり、残りの70万tが緑色

レンズマメである。主要な市場は引き続きインド、トルコ及びEU-27カ国である。国内総利用量は増加して、過去最高記録の47万tとなる見込みである。期末在庫量は2009/10作物年度以来の低い水準まで減少する見込みである。

カナダのレンズマメ平均価格は、期末在庫量が2年続いて少ないことから、2012/13作物年度と同様の水準となるものと見込まれている。赤色レンズマメの価格は2008/09作物年度以来初めて、大粒緑色レンズマメをわずかに上回る見込みである。6月中に、サスカチュワン州の大粒緑色レンズマメの生産者価格及び赤色レンズマメの生産者価格の両方が25カナダドル/t低下した。これは主として2014年のカナダのレンズマメ作付面積が大幅に増加したことが、カナダ統計局により確認されたことによるものである。

2014/15作物年度のカナダのレンズマメ作付面積は、前年度に比べて増加して131万haとなったが、これは特に赤色レンズマメについて他の作物に比べてより高い収益が予測されたことによるものである。作付面積は2013/14作物年度に比べて35%増加したが、増加分の大部分が赤色レンズマメである。州別に見ると、サスカチュワン州がレンズマメ作付面積の96%を占めており、残りはアルバータ州で作付けされている。AAFCの予測によれば、生産量は6%増加して過去最高記録の200万tとなる見込みであり、期初在庫量が少なかったことから供給量はわずかに減少する見込みであ

る。輸出量は前年度と変わらず160万tと予測されている。期末在庫量は前年度に比べて増加して15万tとなる見込みである。カナダ産レンズマメに対する輸出需要が3年連続で強い状態を保つとすれば、2013/14作物年度の値からの平均価格の低下はわずかなものに留まる見込みである。

米国の2014/15作物年度のレンズマメ作付面積は、米国農務省の予測によれば、2013/14年度に比べて12%減少して12万1,000haとなる見込みであるが、これはモンタナ州で作付面積が減少したことによるものである。単収及び収穫を断念する割合が平年並みであるとする、2014/15作物年度の米国のレンズマメ生産量は、AAFCの予測によれば、前年度に比べて19%減少して20万tとなる見込みである。米国産レンズマメの主要な輸出市場は、引き続きインド及びEU-27カ国となる見込みである。

乾燥インゲンマメ

2013/14作物年度の乾燥インゲンマメ輸出量は、カナダの供給量に限りがあるにもかかわらず、2012/13作物年度と同水準となる見込みである。米国及びEU27カ国が引き続きカナダ産乾燥インゲンマメの主要な市場であり、これより少量が日本、中東及びアフリカ諸国へ輸出されている。北米全体の供給量が減少していることで2013/14作物年度後半も引き続き米国及びカナダの乾燥インゲンマメ価格全般が支えられる見込みである。

2014/15作物年度のカナダの乾燥インゲ

ンマメ作付面積は2013/14作物年度に比べて大幅に増加して14万haとなると予測されており、これは他の作物、特にダイズ及びトウモロコシに比べて収益性が高くなる可能性が見込まれているからである。州別に見ると、オンタリオ州が乾燥インゲンマメ作付面積全体の42%を占めており、マニトバ州が42%、アルバータ州が14%で、残りがケベック州となっている。生産量は23%増加して29万tとなると見込みであるが、期初在庫量が少なかったことから、供給量は6%の増加に留まる見込みである。米国の需要が低下していることから、輸出量はわずかに減少する見込みである。この結果、期末在庫量もまた増加する見込みである。北米全体の供給量が増加する見込みであることから、カナダの乾燥インゲンマメ平均価格は、特にホワイトピー・ビーン、ピントー・ビーン及びブラック・ビーンについて低下するものと予測されている。

米国の乾燥インゲンマメ作付面積は、米国農務省の予測によれば、34%増加して60万7,000haとなる見込みであるが、これはノースダコタ州で作付面積が増加していることによるものである。単収及び収穫を断念する割合が平年並みであるとする、2014/15作物年度の米国の乾燥インゲンマメ生産量（ヒヨコマメを除く）は、AAFCの予測によれば、2013/14作物年度に比べて27%増加して120万tとなる見込みである。

ヒヨコマメ

2013/14作物年度のカナダのヒヨコマメ

輸出量は、大幅に減少して4万5,000tとなる見込みである。インド及びメキシコとの競争が激しくなったことから、中東諸国からの需要が低下した。EU-27カ国及び米国は引き続き、カナダのヒヨコマメの主要な市場である。供給量が増加し、輸出量が減少した結果として、期末在庫量もまた増加が見込まれており、記録史上2番目に高い水準となる見込みである。カナダ及び世界の供給量が多いことから、平均価格は大幅に低下する見込みである。

2014/15作物年度のヒヨコマメの作付面積は2013/14作物年度と変わらないが、これは北米全体で価格が低下したにも関わらず、2013/14作物年度に過去最高記録の単収が達成されたことによるものである。州

別に見ると、サスカチュワン州がヒヨコマメ作付面積全体の95%を占め、残りをアルバータ州が占めている。生産量は16%減少して14万8,000tとなる見込みである。しかし、期初在庫量が多かったことから、供給量は前年度に比べて19%増加する見込みである。輸出量は2013/14作物年度に比べて増加する見込みであり、期末在庫量は前年度と変わらないものと予測されている。平均価格は上がるものと見込まれているが、これは世界的に供給量が減少していることと、中東諸国の輸入需要が上向くであろうという期待があることによるものである。

2014/15作物年度の米国のヒヨコマメ作付面積は、米国農務省の予測によれば、過去最高記録の8万9,000haで、2013/14作物

表5 カナダの豆類作付・収穫面積、単収、生産量その他

	乾燥エンドウ [a]			レンズマメ [a]			乾燥インゲンマメ [a]			ヒヨコマメ [a]		
	2012-13	2013-14[f]	2014-15[f]	2012-13	2013-14[f]	2014-15[f]	2012-13	2013-14[f]	2014-15[f]	2012-13	2013-14[f]	2014-15[f]
作付面積 (1,000ha)	1,509	1,345	1,588	1,018	1,060	1,267	127	100	140	81	77	73
収穫面積 (1,000ha)	1,475	1,329	1,488	1,004	1,052	1,161	125	100	138	80	76	73
単収 (t/ha)	2.26	2.98	2.4	1.53	2.07	1.66	2.26	2.32	2.21	2.02	2.33	2.07
生産量 (1,000t)	3,341	3,961	3,577	1,538	2,173	1,930	281	232	305	161	177	151
輸入量 [b] (1,000t)	16	26	15	9	10	10	79	70	60	9	9	8
総供給量	3,622	4,161	3,901	2,407	2,489	2,109	365	332	370	181	240	289
輸出量 [b] (1,000t)	2,650	2,780	2,800	1,638	1,750	1,600	297	304	300	69	48	90
国内総利用量[c] (1,000t)	798	1,071	826	461	570	384	38	23	30	59	62	64
期末在庫量 (1,000t)	174	309	275	307	169	125	30	5	40	54	130	135
在庫量/利用量 (%)	5	8	8	15	7	6	9	2	12	42	118	88
平均価格 [d] (\$/t)	340	260	230-260	440	445	500-530	835	995	840-870	690	500	525-555

[a] 作物年度(8月から7月)

[b] 輸入量及び輸出量には加工品の量は含まれない。

[c] 国内総利用量 = 食用及び加工原料用 + 飼料用廃棄物 + 種子用 + 損耗。国内総利用量は、総供給量から輸出量及び期末在庫量を差し引いて算出した値である。

[d] 生産者価格 (FOB)。すべての銘柄、等級及び市場の平均。

f: 推定。カナダ農業食料省。2014年9月18日付。

資料: カナダ統計局及び業界団体。

年度に比べてわずかに増加する見込みである。これは主としてアイダホ州で作付面積の増加が見込まれていることによるものである。単収及び収穫を断念する割合が平年並みであるとすると、2014/15作物年度の

米国のヒヨコマメ生産量は、AAFCの予測によれば、16万tと見込まれており、過去最高記録であった前年度と等しい値となる見込みである。

オーストラリア：2014年9月9日公表 ABARES Australian crop report

概観

2014/15冬作年度の始まりは、全般的に良好な条件に恵まれたが、冬季の栽培条件には地域による差異があり、作柄の見通しも地域により異なる。

南オーストラリア州の冬作の見通しは、冬季に平年並みの降水量に恵まれ高水準の土壤湿度が得られたため良好である。これと対照的に、西オーストラリア州の冬季の降水量は平年値を下回り、地域によっては平年値を大幅に下回る場合があった。ニューサウスウェールズ州では、年度を通しての生育条件には変動があったが、平均すると単収は、平年値を大きく下回った2013/14年度に比べて改善される見込みである。ヴィクトリア州では、乾燥気味であり、特にマリー及びウィメラといった主要生産地で乾燥した生育条件が続いた。ク

イーンズランド州では、5月及び6月は降水量が平年値を下回ったが、8月には全般的に平年値を上回った。8月に降雨があったことで、ダーリングダウンス地域の冬作にとっては良好な条件が整ったが、クイーンズランド州中部の生産者にとっては遅すぎた感が否めない。

気象庁が2014年8月28日付けで発表した最新の2014年春の降水量3ヵ月予測（9月から11月）によれば、クイーンズランド州、南オーストラリア州及び西オーストラリア州の主要生産地域については、平年並みの条件と大きく異なる見込みは示されていない。しかし、ニューサウスウェールズ州及びヴィクトリア州の中央部については、平年並みに比べて乾燥した条件が生ずる見込みである。

オーストラリア全体としては、2014/15年度の冬作の農産物生産量は12%減少して3,860万tと予測されており、2014年7月の時点での予測をやや下回っている。

表6 オーストラリアの豆類作付面積及び生産量

冬作	作付面積 (1,000ha)			生産量 (1,000t)		
	2012-13	2013-14s	2014-15f	2012-13	2012-14s	2014-15 f
ヒヨコマメ	574	507	339	813	629	470
ファバビーン(ソラマメ)	203	152	168	377	328	337
フィールドピー	281	245	231	320	342	302
レンズマメ	165	169	174	185	254	324
ルーピン	450	387	437	459	625	576

春の時期の十分に時期を得た降雨の 域にとって、冬作の農産物生産量が見込み
有無が、特に土壤湿度条件の水準の低い地 通りになるかどうかの決め手となる。

表7 州別生産量

	ニューサウス ウェールズ州		ヴィクトリア 州		クイーンズ ランド州		南オースト ラリア州		西オースト ラリア州	
	作付 面積 1,000ha	生産量 1,000t	作付 面積 1,000ha	生産量 1,000t	作付 面積 1,000ha	生産量 1,000t	作付 面積 1,000ha	生産量 1,000t	作付 面積 1,000ha	生産量 1,000t
ヒヨコマメ										
2014-15f	145	195	27	48	155	213	8	10	4	3
2013-14s	220	251	48	50	216	296	19	27	5	6
2012-13	280	379	49	52	218	357	20	22	6	4
2013/14年度までの5年間の平均	280	320	44	50	181	232	14	17	5	4
フィールドピー										
2014-15f	51	66	45	60	0	0	110	0	24	29
2013-14s	50	53	51	68	0	0	112	0	32	37
2012-13	53	66	52	65	0	0	114	0	62	59
2013/14年度までの5年間の平均	43	48	54	75	0	0	115	0	63	60
レンズマメ										
2014-15f	1	1	83	124	0	0	91	199	0	0
2013-14s	1	1	79	112	0	0	89	141	1	1
2012-13	1	1	77	80	0	0	87	103	1	1
2013/14年度までの5年間の平均	1	1	79	104	0	0	86	144	1	1
ルーピン										
2014-15f	56	61	32	38	0	0	55	70	295	408
2013-14s	57	57	28	29	0	0	56	78	246	461
2012-13	58	63	29	26	0	0	61	74	303	295
2013/14年度までの5年間の平均	85	108	36	39	0	0	59	78	414	513
2013/14年度までの5年間の平均	20	28	1	1	11	12	0	0	0	0

f: ABARES による予測。

s: ABARESによる推定。

典拠: ABARES (オーストラリア農業経済及び農業科学庁)、オーストラリア統計局、Pulse Australia

表8 オーストラリアの豆類供給及び利用状況

	2007-08 1,000t	2008-09 1,000t	2009-10 1,000t	2010-11 1,000t	2011-12 1,000t	2012-13 1,000t
生産量						
ルーピン	662	708	823	808	982	459
フィールドピー	268	238	356	395	342	320
ヒヨコマメ	313	443	487	513	673	813
見かけ上の国内利用量a						
ルーピン	585	404	470	621	416	290
フィールドピー	129	104	196	95	130	145
ヒヨコマメ	87	1	1	39	93	1
輸出量						
ルーピン	77	304	353	186	565	169
フィールドピー	141	137	162	302	215	177
ヒヨコマメ	222	506	492	461	598	815

a: 生産量に輸入量を加えた値から、輸出量を引き、さらに在庫量に明らかな変化が認められたか推定された場合には、その値を引いて算出した値。

注: 生産量、利用量、輸出入量及び在庫量は、市場年度に基づいている。ピー及びルーピンの市場年度は、11月から10月まで。在庫量の増減があることから、生産量は、単年度内の見かけ上の国内利用量と輸出量を足した値とは一致しない場合がある。輸出量のデータは、市場年度に基づく輸出期間を参照したものであって、他の資料で公表されている財務年度に基づく輸出量とは一致しない場合がある。

典拠: ABARES (オーストラリア農業経済及び農業科学庁)、オーストラリア統計局、Pulse Australia

表9 豆類価格の推移

	2012 第4四半期 豪ドル/t	2013 第1四半期 豪ドル/t	2013 第2四半期 豪ドル/t	2013 第3四半期 豪ドル/t	2013 第4四半期 豪ドル/t	2014 第1四半期 豪ドル/t	2014 第2四半期 豪ドル/t
国内価格：ルーピン (クイナナ調べ)	336	331	299	288	309	349	336
国内価格：ヒヨコマメ (メルボルン調べ)	514	518	532	439	390	437	449
国内価格：フィールドピー (メルボルン調べ)	343	370	396	403	335	366	389
輸出価格：ヒヨコマメb	623	595	612	620	498	537	534
輸出価格：フィールドピー b	411	431	444	489	420	422	431

b：単位重量当たりの輸出価格は、その四半期に輸出された穀物の平均価格を反映したものであって、現在の市場価格とは異なる。ここに示した価格は、オーストラリア統計局が記録したオーストラリアからの輸出の単位重量当たり平均価格(F.O.B.本船渡し)である。輸出業者による価格の取り決めの時点と、実際に輸出が行われる時点の間には、大きな時間差が生じる場合がある。

注：第1四半期は1月から3月まで。第2四半期は4月から6月まで。第3四半期は7月から9月まで。第4四半期は10月から12月まで。価格の算出に当たっては、商品サービス税(GST)を除外している。